

教育研究所だより

令和7年度（2025年度）

3月号（通算263号）

# 輝動

（きどう：子どもが輝き、躍動するまち）

近江八幡市教育研究所

TEL 0748-36-5574

FAX 32-3352

メール

044800@city.omihachiman.lg.jp



## 大胆に、楽観的に

教育研究所副所長・学校支援コーディネーター 五嶋 弘道



皆さんこんにちは。今年度4月から教育研究所で副所長、学校支援コーディネーターの任に就いています五嶋弘道です。この新しい職に就いて早一年が過ぎようとしています。この間、私が携わったことは、研究所ですから市の研究を進めること。これについては、新たに研究所長と副の私の職ができたことで、探究的な学びについて、新体制で工夫して進められたと思っています。また、学校支援という立場から、市内の小中学校長から困り事や相談事があれば学校に出向いて話を聴き、適切かどうかはわかりませんがアドバイスをを行いました。時には学級の授業支援に入ったり、保護者対応に同席させてもらったりすることもありました。その他、市教委の中で何か支援を頼まれるとその役割を遂行し、こんな時はどうしたらと相談されれば相談に乗る、つまり全般的には何でも屋さんみたいなこともしています。学校現場は日々多忙でたくさんの課題を抱えながらの勤務が続き、ストレス等かかる負荷は大きなものがあります。しかし、子どもたちは素直で可愛く（中学生も）面白いです。

さて、こうした中で今年の漢字は？つまり令和七年、昨年漢字は？と尋ねられたら、私としては「新」です。長年働いてきた学校から退職して新しい職場になり、新しい生活を始めたからです。とは言っても研究所ですから結局教育関係、学校と関わりのある職場になりました。本当は、もっと違う世界に飛び込みたかったのですが、そこまでの勇気がありませんでした。と同時にやはり学校に関わることが好きだからです。しかし、うまくいく（午年）ことばかりではありません。現役の時もこの一年間乗り切れるだろうかと思うことが度々ありました。そんな時に心の拠り所にしてきたのは「大胆な発想をし、楽観的に考える」という言葉です。「何かを成し遂げようとする時には失敗はつきものです。その度に落ち込んでいては何も進みません。思い切った発想をしていつかはなんとかなるという楽観的な気持ちで挑戦し続けることが大切です。」という講演を若い時に拝聴したことがあり、なるほどと感じたのでそれ以来私もできるだけそう考えるようにしてきました。感染症対策の数年間や、その他生徒指導等、かなり困難な事で乗り越えられるだろうかと思うような場面でも、「いつかはなんとかなるだろうから、見通し持って少しずつやっていくしかないな」と考えるようにしていました。現在の職場でも「新」ですから、初めてのことでうまくいかないこともありますが、長年携わってきた好きな教育関係で、子どもたちが健やかに未来を目指せるよう「大胆に、楽観的に」日々挑戦し努力していきたいと思っています。

# 【研修・研究事業報告】



## ★第4回近江八幡市初任者研修

日時 2月5日(木)

場所(午前) 学校給食センター

(午後) 県立安土考古博物館



- 研修Ⅰ「ブックトークについて」  
講師:ブックトーク研究会
- 研修Ⅱ「学校給食について」  
講師:八幡中学校 栄養教諭
- 研修Ⅲ「近江八幡市の歴史と文化について学ぶ」  
フィールドワーク・グループ協議
- 研修Ⅳ「1年間を振り返って」  
講師:教育研究所 所長

研修Ⅰでは、ブックト

ーク研究会「ぶっくあい」市島氏より学校図書館の機能や子どもの読書活動に関すること、またブックトークの起源と理念などについて講話をいただいた後、実際にブックトークを披露していただきました。その後初任者がグループごとに各自選書した本を用いてブックトークのシナリオ作りを行うことを通して、子どもをいかに本へいざなうかについて思考をめぐらせる機会になりました。

研修Ⅱでは、栄養教諭より学校給食法や食育基本法などを用いて給食の教育的意義を伝えていただいたうえで、近江八幡市では「はちまんの日」「動画資料の配信」「教科書との関連献立」など様々な取組を通して子どもたちの『未来を生き抜く体と心を育てる』という思いをもって学校給食を提供しているということを伝えていただきました。

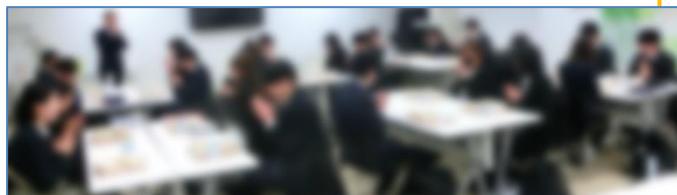
研修Ⅲでは、6つのグループに分かれて展示物やシアターの見学をし、近江八幡市の歴史や文化に触れました。見学の中で各自が「気になったこと」から「問い」を立て、その「問い」を教育現場においてどのようにして探究のサイクルを回していくか、具体的な場面や方法についてグループで交流・協議を行いました。そして研修Ⅳでは自身の強みや弱み、子どもから自分はどんな教師とみられているかなど、自分自身を俯瞰的に捉えることで1年間を振り返りました。

### 「読書指導」の講話、他の受講者の選書やメッセージから考えたこと

- 読書の世界に「子どもを誘う」という意識は、教師として常に持つべきものだと感じました。特に低学年では、教師が読書に関心があるかないかで子どもの姿も変わると思うので、教師自ら子どもたちに語りかけるブックトークのような手法は、どこかで実践したいと感じました。そのために、日頃から図書館に行ったり、本を読んだりして、自分自身もまた良い本に魅せられる体験を積み重ねていけるよう努めていきたいです。
- 学校図書館に読書・学習・情報という三つの役割があること、司書さんと連携し授業や多様な学習活動に生かしていくことの重要性を学びました。学級の朝読書では、意欲的に読書に向かえない生徒の姿が見られます。そこで、司書さんと相談しながら学校図書館を積極的に活用し、不読傾向の生徒や本に興味の薄い生徒の実態に応じて、本に親しむことができる手だてを考えていきたいです。また、教科横断的な図書活用や授業内容を深める参考図書の活用を図り、授業づくりの充実にもつなげていきたいです。

### 学校給食について講話や施設の見学を通して、今後の給食指導に生かそうと考えたこと

- 特に印象的だったのは、年間を通して子どもたちが食に興味を持てるよう、教科書の内容と連動したメニューを考案するなど、センターの方々が細やかな工夫と深い思いを持って献立を作られている点です。今後は、こうした現場の方々の想いも汲み取りながら、給食の時間を単なる食事の時間とするのではなく、生きた学びの場として大切に指導を行っていきたいです。
- 食に関する指導年間計画を見ることで、学年や発達段階、季節に応じた献立が意図して組まれていることを知り、給食の時間そのものが学びの場であると気付きました。今後は、ただ食べる時間として終わらせるのではなく、献立に込められた食育目標や給食目標を子どもたちに分かりやすく伝え、日々の給食指導に生かしていきたいです。(受講者の振り返りより一部抜粋)



★R7 近江八幡市教育研究所調査研究 生きる力から『生き抜く力』育成プロジェクト

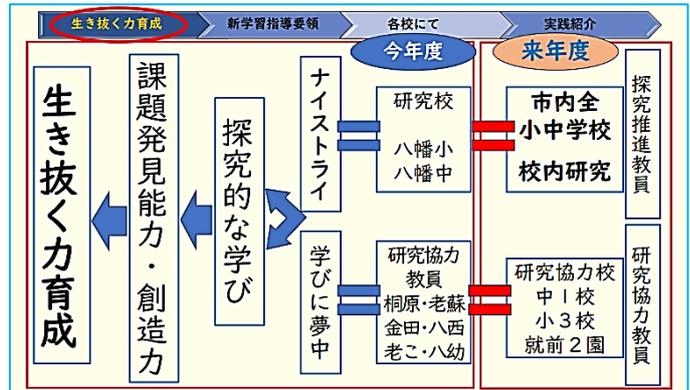
●生きる力から『生き抜く力』育成プロジェクトに関わる研究主任会を実施しました

日時 1月28日(水)

場所 近江八幡市役所2階 会議室2F・2G

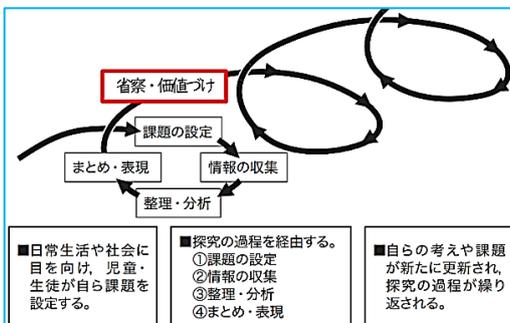
市内全市立小・中学校の研究主任16名に集まっておられ、来年度の生き抜く力育成プロジェクトに関する構想を伝えました。

右の図の通り、生き抜く力育成のための2つの実践“ナイストライ”と“学びに夢中”を来年度も引き続き行います。特に“ナイストライ”にお



いては、市内全小中学校にて校内研究として取り組み、探究のサイクルを意識してカリキュラム編成を進めていきます。

各校、これまでの総合的な学習の時間での様々な取組を大事にしながらも、それが探究学習となっていたか？子どもの課題発見から始まる探究的な学びにするために必要なことは？といったことを各校で改めて検討することで、単なる調べ学習では終わらない、子どもが「やってみたい」といきいきと取り組む総合的な学習の時間を皆さんと探究していきたいと考えています。



探究的な学習における生徒の学習の姿



近江八幡市の子どもたちが、そして教職員の皆さんも“ナイストライ”に「ナイストライ!!」と言い合える、そんな前向きな実践を近江八幡市として繰り返されたいと思っています。

●第5回(最終回)生き抜く力育成実践チーム会議を実施しました

日時 2月17日(火)

場所 近江八幡市役所2階 会議室2E

今年度、本調査研究に研究協力教員として携わっていただいた8名の教諭と最後の会議をもち、今年度の振り返りや、来年度に向けての協議を行いました。

1年間、探究的な学びに取り組むなかで、「自分で興味のある付けたい力に沿って課題を決める姿」や「言われた通りにするのではなく、自分で方法を考えてやってみる姿」、「自分の必要に応じて学習相手や学習材を選択する姿」など、様々な子どもの姿が見られたという声がありました。

そして来年度も引き続き探究的な学びにチャレンジしたいという意見もありました。1年間ご協力、本当にありがとうございました。



市内の教職員の皆さんも各教科での探究的な学び、“学びに夢中”にぜひチャレンジしてほしいと思っています。



## ★令和7年度 教育研究奨励表彰式

日時 1月28日(水)

場所 近江八幡市役所3階 特別会議室2

今年度の近江八幡市教育研究奨励事業に取り組まれた15名の皆さんの表彰式を行いました。教育長から教育研究奨励賞が贈られました。また、副賞を近江八幡市教育会より贈呈いただきました。

代表者挨拶では、「研究を行っていく中で、3つの大切なことに気付きました。それは、安心して意見が出し合える温かな教室環境づくり、探究的課題

の構築などの教材研究、研修への意欲的な参加等による自身のブラッシュアップの3つで、その3つの共通点は“準備”です。学級経営も教材研究も研修への参加も教師としては当たり前のこと、でもこの当たり前を丁寧に行うことにより、子どもたちは自分のもてる力以上のものを発揮してくれることに改めて気づきました。」と、受賞に対する想いを教育長へ述べられました。

受賞された皆さん、おめでとうございます。



来年度は、生き抜く力の育成を目指した探究的な学びに関わる内容での教育研究奨励事業を考えています。関心のある方、実践されている方の積極的なご応募をお待ちしております。

## 令和7年度(2025年度) 各校園の研究主題に基づく取組 ※研究紀要に掲載

八幡幼稚園	幼児の自立心を育む遊びの環境とは ～人と関わって意欲的に遊ぶ幼児を目指して～	金田小学校	自らの思いを伝えられる金田っ子の育成 ～目の前の子どもを出発点に「もっと書きたい」が生まれる授業づくり～
沖島幼稚園	「生き生きがんばる沖島っ子をめざして」 ～「やってみたい」と心が動く環境や援助の在り方～	桐原小学校	自ら考え 学び合い 伝え合い 共に育つ子の育成
金田幼稚園	「いきいき話そう!わくわく聞こう!心が動くサークルタイム」 ～振り返りで育む主体性～	桐原東小学校	話し合い,自分の考えを広げ,深める授業実践
馬淵こども園	自分のまま 自己表現する幼児を目指して ～人との関わりを深めるための環境とは～	馬淵小学校	自分の思いをもち,自ら表現し,伝えようとする子の育成 ～学習の必然性と見通しをもてる単元計画の在り方～
北里幼稚園	“じぶんがすき あそぶのがすき ともちがすき” 子どもの育成 ～体を動かすことが楽しい!自分からやってみたい!と思える子どもを目指して～	北里小学校	他者の考えを受け止め,自ら表現する児童の育成 ～個別最適な学びの実現に向けた授業づくり～
武佐こども園	“心も体もたくましい武佐っ子”をめざして ～人との関わりを通して,思いをのびと表現する力を育むための環境や援助とは～	武佐小学校	自分の思いや考えをもち表現でき,相手の思いを受け止められる子どもの育成 ～一人一人が安心・安全に過ごすことができる学級・学校を目指して～
安土幼稚園	つながり合いながら自ら考え挑戦できる幼児を目指して ～やってみよう!もう一回!できた!につながる環境の工夫～	安土小学校	子どもが「わかった」「できた」と実感できる指導・支援の工夫 ～個別最適な学びと協働的な学びの充実～
老蘇こども園	「は・あ・と・がだいじ 心でつながる老蘇っこ」を目指して ～対話を通して,人とつながり合う力を育むための環境や援助を探る～	老蘇小学校	考えよう・伝えよう・広げよう ～考えを伝え合える授業づくりの工夫～
八幡小学校	学びに夢中になり たくましく生き抜く子どもの育成 ～地域教材を生かした「探究する学び」のハ小カリキュラム開発～	八幡中学校	教科の指導と生徒指導の一体化 ～生徒指導4つの視点の授業づくりで朝やかな生徒を育む～
島小学校	ふるさとに誇りを持ち島学区の良さを見つけようとする子の育成 ～自ら課題を見出し主体的に学び行動する姿を生み出す授業の創造～	八幡東中学校	教職員一丸となって取り組む道徳指導の充実 ～自分事として道徳的価値を捉え,自己の生き方について考え深める生徒の育成～
沖島小学校	主体的・協働的に学び,考えを深め合える沖島っ子をめざして ～一人ひとりによりそい個人に応じた授業づくりを通して～	八幡西中学校	子どもの非認知能力を育成する授業づくり ～教師の個別最適な学びを通して～
岡山小学校	「わたし,みんなと,おかやま(地域・ふるさと)が,つながり広がる学びと発信」 ～学び合える単元・集団をどのようにつくればよいか～(二年度)	安土中学校	「つながる集団」と「つながる学び」 ～タブレット端末の特性を活かして～